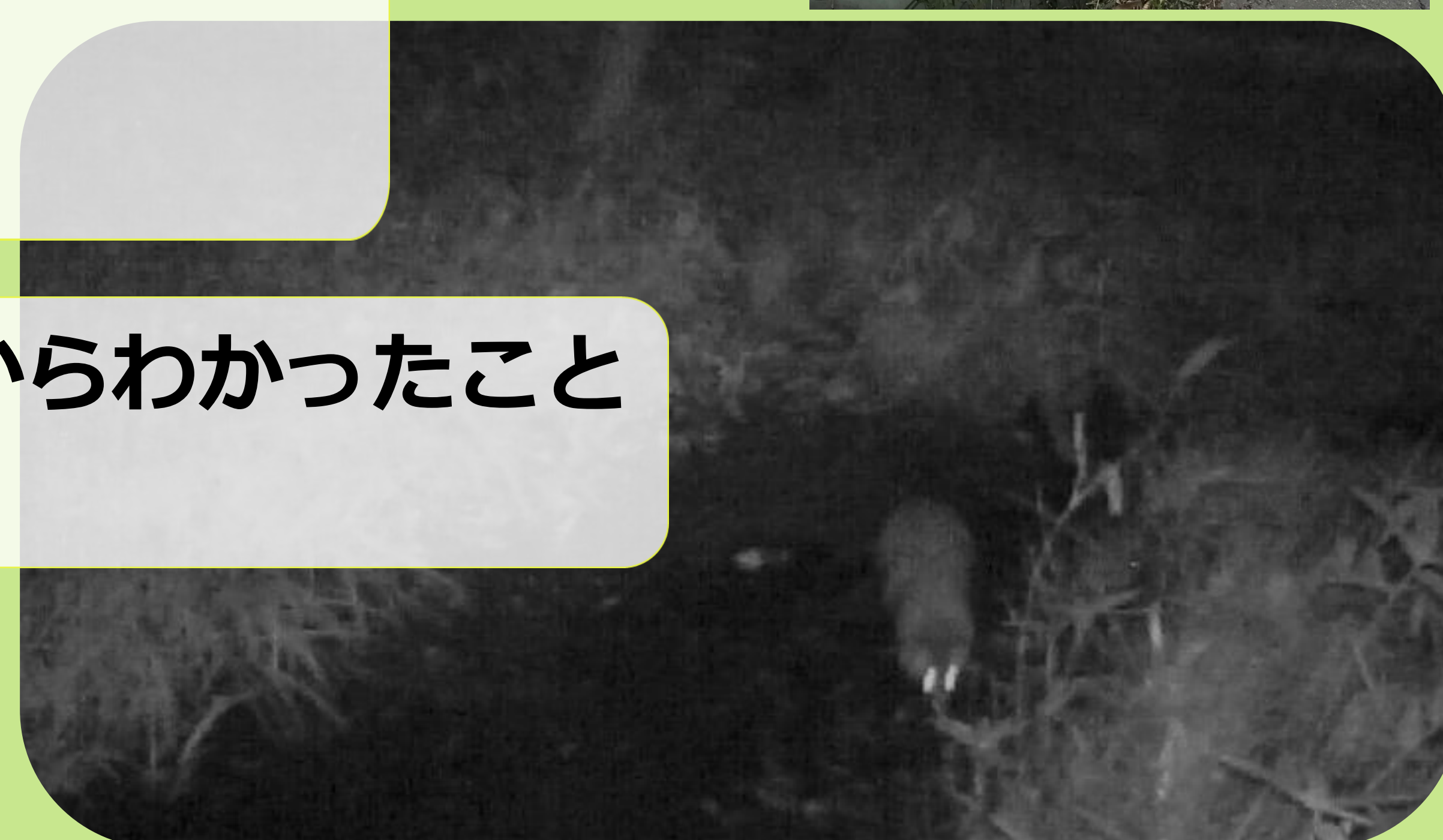


生息地としての河川と道路の闇と光

食肉目の一部は都市環境にも適応しており、保護管理の議論が必要になっている。河川や道路は、都市域におけるベルト状の生息地として機能する。一方で人工的な水路や道路は、コア生息地の分断や個体群のシンクの発生場所にもなる。食肉目の生息地としてこれらの環境を捉えるには、ネガティブな面とポジティブな面の双方を考慮した上で、生息地の質を高める知恵が求められる。河川と道路における食肉目の利用実態を明らかにし、その情報をもとに改善策を議論することは、都市環境での保護管理を遂行していくために重要であろう。本集会では都市域における河川および道路と食肉目の関係を調べた研究事例を紹介しつつ、河川と道路の生息地としての暗部を克服し、逆に光となる生息地としての質の向上を今後どのように進めていけるのか議論したい。

<講演>

- 国土交通省所管事業における生物保全の取組の現況について
舟久保 敏（国土交通省国土技術政策総合研究所）
- タヌキの交通事故個体を用いた食性の長期的変化から見てきたこと
塚田英晴（麻布大学／道路生態研究会）
- 都立野川公園におけるホンドタヌキ (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*) の水辺利用事例
平田彩花・金子弥生（東京農工大学）
- 食肉目と都市河川：多摩川における長期調査からわかったこと
金子弥生（東京農工大学）



<コメント>

- ハビタットネットワークを解析するための景観指標
斎藤昌幸（山形大学）

2018年9月7日（金） 17:30～19:30

信州大学伊那キャンパス 農学部講義棟 26番教室

<http://www.mammalogy.jp/conf/2018/stay.html>